

「めまい」について

「めまい」とは成人に比較的多くみられる症状であり、生まれてから一度も「めまい」を経験したことがない方は、おそらくいらっしゃらないのではないのでしょうか。日本語で「めまい」と表現する症状は、「身体の安定感が失われた感じ」をすべて含め、非常に抽象的な概念であるため、患者さんは病状を他の人に説明しづらく、心配を抱えながらも、つい医療機関を受診せずに様子を見てしまう方が多いようです。

ところが「めまい」の原因疾患は非常に幅広く、時に致命症となる疾患が隠れていることがあります。特に外気と室内の温度差が激しいこの季節は患者さんにとって注意が必要です。

「めまい」の多くは以下のように分類されます。

● 回転性めまい (Vertigo)

身体または周囲の景色がぐるぐると回るような感覚を伴います。突然発症し自覚症状も強いので、患者さんは脳卒中を心配して救急受診される方も多いようです。しかしこの原因のほとんどは内耳(下図)のバランス感覚の障害によるものです。内耳障害の場合、多くは一時的で症状は自然に改善し、重篤な症状をきたすことはありません。



例外的に、突発性難聴という病気で、1週間以内に治療を開始しないと、難聴や耳鳴、反復性めまいといった後遺症を生じるため、早めの受診が必要です。

脳卒中による回転性めまいはごく稀なケース(全ての回転性めまいの1%程度)で、この場合は顔面や手足の左右どちらか半分に現れるしびれや力の入りにくさ、嚥下障害や呂律障害などを合併することから内耳障害との区別が可能です。脳卒中によるめまいの場合は放置すると致命症になるため緊急受診が必要となります。



● 動揺性めまい (dizziness)

回転感を伴わない身体・頭位の浮動感(フワフワ、グラグラなど)を自覚するめまいのことです。比較的慢性に経過し、高血圧、貧血、脱水や発熱による全身消耗などで生じることが多いようです。これらは原因疾患を治療することによりめまいの症状も改善していくことがほとんどです。

また一部の薬の副作用でめまいを生じる場合もありますので、新しい薬の服用が始まって間もなくめまいを感じるようになった場合は薬を処方した医師にご相談ください。

また稀に小脳や脊髄といった神経の異常でも動揺性のめまいを生じることがあります。これらは同時に喋りにくい、真っ直ぐに歩けない、体の片側にしびれや麻痺を認めるなどの症状を伴うことが多く、この場合も緊急の治療が必要となります。

(次ページへつづく)



大谷 圭 先生

日本内科学科総合内科専門医・認定医、
日本救急医学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、認定産業医
2015年9月より日本クラブ診療所にて勤務。救急医療のエキスパート

● 失神性めまい (Faintness)

一瞬、血の気が引くような感じがあり、意識の遠くなる感覚を伴う身体がフラフラするめまいのことです。実際に意識を失うこともあります。

最も多いものは起立性低血圧（立ちくらみ）です。これは立った瞬間に重力の影響で血液が下半身に溜まるため、相対的に脳の血流が低下（脳虚血）し、発症します。他にも排便・排尿直後、頸を強く圧迫する、腹痛や腰痛などの強い痛みを我慢するなど副交感神経が急激に刺激されることで血圧が急速に低下し、発症することがあります。これらはどんな人にも起こりうるもので、原因がはっきりしていれば早急な治療の必要はありません。ただし、意識消失の際に転倒し、怪我をする危険性がありますので、以後は症状を誘発する状況を改善していくことが重要になります。一方で心臓疾患があり重大な発作性不整脈などで脳虚血となり上記症状を呈することがあるので、中高年になってからはじめて失神性めまいをおこした場合は、後日、循環器科などで精密検査を受けていただくことをお勧めします。



● 老人性・心因性めまい

高齢者の方は全身の調節機能が低下してきているとともに複数の持病を持っていることがあるため、上記の症状が組み合わさっためまいがみられます。

症状が複雑なうえに頻繁に発症するため、治療が困難となり患者さん自身が治療をあきらめてしまうことも多いようです。しかし受診を契機に心臓病や脳卒中が発見されることがあります。

また、ストレスによりめまいを発症する場合があります。これは上記のような内耳や脳神経、心臓等に異常はなく、心理的な反応によりめまいが自覚されるため、症状は非典型的で一定しないという特徴があります。患者さんは強い苦痛や恐怖心から不安発作を伴うことが多く、ストレスや不安感を軽減するような治療も重要になります。

◇ ◆ まとめ ◆ ◇

めまいはよくある症状でありながら、いずれの場合においても一部に危険な疾患が隠れていることがありますので、お早めに医療機関にご相談ください。

(おわり)

◇ ◆ ◆ 重要なお知らせ ◆ ◆ ◆

このたび日本クラブでは、2016年3月に「南診療所を閉鎖」し、4月から「北診療所に統合」して診療を続けることになりました。南診療所を長い間ご利用いただいた皆様にご心より感謝申し上げますと共に、閉鎖によりご不便とご迷惑をお掛けしますことを心より深くお詫び申し上げます。

4月以降の北診療所では、以下の通り、平日と週末の診療時間を延長します。

月曜～金曜 09:00 - 19:00 ※ 診療時間を19時まで延長します

土曜 09:00 - 17:00 ※ 診療時間を17時まで延長します

日曜 09:30 - 12:30 ※ 日曜日にも診療します

※ 年末年始、イースター期間中、祝日を除き、毎日診療します

4月以降は、医師と職員が北診療所にて一丸となり、引き続き皆様の健康維持・管理をサポートさせて頂けるよう、尚一層の努力を続けて参る所存でございます。

今後とも日本クラブ診療所をご活用くださいますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。